

【会情報】

【会員企業ご訪問 : Vol 143】

株式会社酒井製作所（東大阪支部）

今回は西日本プラスチック東大阪支部会の株式会社酒井製作所 代表取締役 酒井 賢一様を訪ねました。

本社住所	東大阪市水走 2-1-47
電話	072-963-6636
FAX	072-963-6638
資本金	1,600 万円
創業	昭和 8 年 10 月
設置機器	NC 旋盤 : 5 台 マシニングセンター : 3 台 鋸盤 : 1 台 パネルソー : 1 台 プレーナー : 1 台 三次元測定機 : 1 台



代表取締役 酒井 賢一氏

創業（祖父）から先代まで

当社は昭和 8 年に祖父が大阪市東成区で創業した後、父が昭和 37 年に株式会社へ改組し、昭和 47 年に現在の場所へ本社工場を新築移転し創業しました。戦後すぐの頃は電気の供給が不安定で機械が動かなくなったり、材料費の高騰などが頻繁にあった様で、一時期は経営が厳しく、行商に出なければならなかった時期もあったようです。



本社 外環

仕事の依頼はお客様からが中心

「まいど 1 号」という人工衛星はご存知でしょうか？当時様々なメディアにも採り上げられましたので、名前を聞いた事がある方も多いと思います。この人工衛星は 2002 年に厳しい不況の中「苦しい時こそ夢を持たなアカン！」と職人集団が立ち上がり、中小企業の技術力を結集して人工衛星を打ち上げようと東大阪宇宙開発協同組合（注）が設立されてこのプロジェクトは始まったのですが、当社もこの人工衛星の製作

に係りました。正確には、本来この衛星に係わる予定はなかったのですが、以前から製作に取り組んでいた知人より、衛星を構成する部品の切削依頼があり、それを引き受けたので衛星の製作に係わる事になったのです。本当は、求める部品の複雑さと細かさに対して納期が短すぎるので依頼を断りたかったのですが依頼主が知人でもあり最終的に引き受けました。

まいど1号は少し特殊な例ですが、当社はお客様が仕事を持ち込んでこられるケースが多く、配達しながらの営業活動で仕事を頂いています。これも偏に皆様が当社の技術と品質を信頼して頂いた結果と思っていますので、本当にありがたいと感じています。

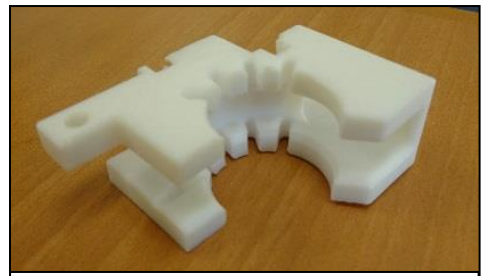
(注) 2012年11月2日より組合商号を東大阪宇宙開発協同組合から、宇宙開発協同組合 SOHLA に名称変更

大事にしている事

【But let us begin】これはケネディ元大統領が就任演説で使った言葉です。日本語に訳すと『だけどやってみよう』という意味になります。私が学生の時から好きな言葉の一つなのですが、この言葉にオリジナルで「出来ないかも知れない」という言葉を加え、『出来ないかもしれない でもやってみる』としています。何事でもそうですが、チャレンジしなければ成長はないと思っています。なので、結果として出来ないかもしれないが、まずはやってみる事が大事だと従業員にも常々言って来ました。今ではこの言葉が当社の社訓のようになっています。

社員教育など

朝礼を実施している会社は多いと思います。当社でも毎日朝礼を実施していますが、少し特徴があります。それは、「職場の教養」という小冊子があり、その冊子は日めくりカレンダーの様に毎日記載されている文章が異なっているのですが、朝礼では当日に担当の社員が記載されている文章を読みあげた後、感想も発表するようにしています。例えば、11月1日は「失敗したときこそ」、11月2日は「離れていても」というタイトルの文章があり、感想を発表します。これによって様々な考え方や価値



まいど1号に使用された部品（同一品）



切削加工品

観が深まり、社員の自己啓発に繋がればと考えています。

製造業は従業員がすぐ辞める、人手不足、採用難等とよく人材に関する課題が採り上げられますが、当社では幸いな事に10年ほど工場の離職者は出ていません。従業員も幹部を除くと社員は20代が殆どで、若手がよく頑張ってくれています。そのおかげもあって、現在は中途・新卒共に採用を行っていないのですが、おかげさまで順調に仕事を頂けている事もあり、そろそろ中途募集を行うべきかどうかを思案しています。昨今の情勢から、今後は人材関連で課題が発生するかもしれないと感じています。

協会への要望点

協会では様々なセミナーや勉強会を実施しているので、勉強できる機会が多くありがたいと思っています。セミナー等は私だけではなく、社員にも勉強になると思えば積極的に研修等に出させていますので、今後も勉強になるようなセミナーや勉強会を実施して欲しいと思っています。



工場内の様子

※ 会社を訪問して ※

製造業はいわゆる「3K」が原因で離職率が高いと言われる中、10年ほど工場の離職者がおられない事に驚きました。残業はほぼなく、週休2日制で有給もほぼ消化しているのは、社長の気さくな人柄と社員への思いやりの結果だと思います。また、社長の掲げる「出来ないかもしれないでもやってみる」という信念が社員の自己啓発を促し、そして発案された様々なアイデアにより業務の効率化が進んだ事が現在の状況に繋がる要因だと思いますが、今後さらに効率化が進んだ状況を拝見する事ができれば、と楽しみに思いました。

◎ありがとうございました
取材：事務局 山下・矢野

※本記事記載の情報については、2017年11月1日現在のものとなります。

掲載希望の方は

事務局(06-6214-8300)までご連絡ください。